

15世紀英国の情緒的特性： 『キリストの尊い生涯の黙想』の影響について

Feelings and Emotions in Fifteenth-Century England:
Influences of Nicholas Love's *Mirror of the Blessed Life of Jesus Christ*

田口 まゆみ (TAGUCHI Mayumi)

ヨーロッパ中世の終焉は、感情・情緒に満ち満ちていた。その走りは、14世紀初めにフランシスコ修道会士によって書かれた『キリストの生涯の黙想』(*Meditationes Vitae Christi*)である。西洋美術は、キリストの生涯を情緒的に綴ったこの作品のおかげで感情表現を学んだ。また、演劇や多くの宗教文学が、影響を受けた。それはまた、この時代の土壌が生み出したものだと言えることもできる。本研究は、銅の時代として、顧みられることが少ない15世紀が、情緒の時代であり、それは、西洋文化がその後の宗教改革を経て理性の時代へと熟成していく過程への準備が進んだ重要な時代として再評価することを目的とした。

本研究では特に、『キリストの生涯の黙想』の中世英語訳のひとつである、Nicholas Loveによる *The Mirror of the Blessed Life of Jesus Christ* に焦点を当てた。

当時教会は、Wyclif 派の教会批判、聖書中心主義の勢力を恐れ、Oxford 教令(1409)によって、彼らが14世紀末に作った初めての英語による完訳聖書の使用を禁止するとともに、以後、聖書を英語に訳すること、それらを使用することに厳しい制限を加え、教会の裁可を受けなければならないこととした。Nicholas Love の *The Mirror of the Blessed Life of Jesus Christ* は、そうした中、福音書に代わる一般信徒の書物として教会の裁可を受けたことが知られる唯一の書であり、さらに教会、政府が出版を奨励したので1世紀以上にわたって幅広い層の人々によって読まれた。

The Mirror of the Blessed Life of Jesus Christ は、中世末期ヨーロッパ全域の美術に感情表現を与えた『キリストの生涯の黙想』の情緒的特長を十分に残し、直接的・間接的に、広くイギリス市民に広め、当時の他の芸術・文化、メンタリティ形成に多大な影響を与えた。しかし一方、『キリストの生涯の黙想』に大幅な削除と加筆を行っており、最近その改変の意図や影響についての研究がいくつか発表されている。

私は特に *The Mirror of the Blessed Life of Jesus Christ* で使用されている特殊な語彙・表現の頻度と分布を調べ、分析することによって Love が意図して変えた、あるいは無意識のうちに変わった点についてその意味を、当時の文化的背景において考察した。

成果は、2008年7月、国際学会 International Conference on Middle English (Cambridge, UK)にて発表の上(“Some Characteristics of the Use of Technical Devotional Terms in Nicholas Love's *Mirror of the Blessed Life of Jesus Christ*”), これをもとに進めた研究成果を同国際学会のプロシーディングに応募した。この論文は審査を通過したので、2010年中には発行の見込みである。